

令和6年度救急救命技術研修会

救急課（本部指導第2救急隊）

こんにちは！本部指導第2救急隊の岡本です。
今回は大阪市消防局にて平成11年から行っている「救急救命技術研修会」を紹介します！

救急救命技術研修会は通称「エルステック・ELSTEC（Emergency T echnical Educational T echnical Competition）」と呼ばれ、大阪市内の25消防署から救急隊と消防隊がそれぞれ一隊ずつ参加して想定訓練を行います。

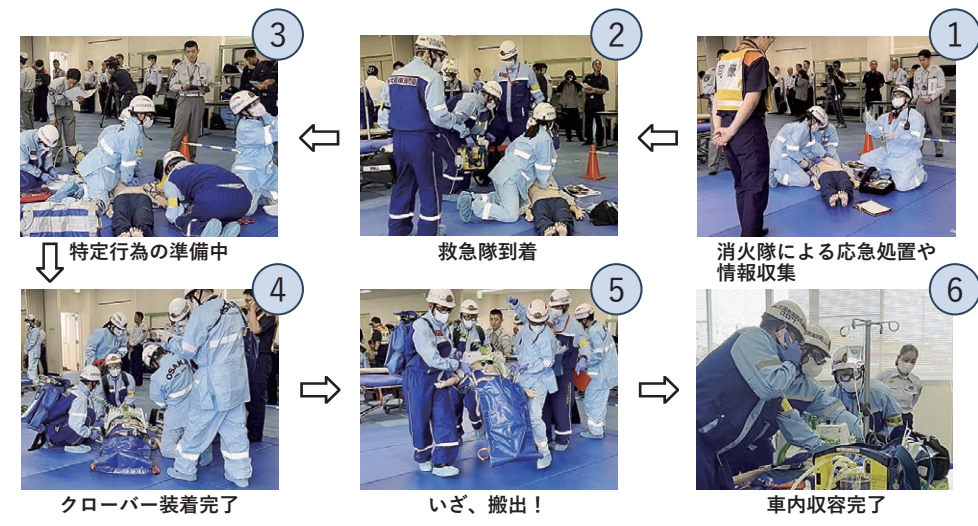
医師や指導救命士から評価を受けて、救急の知識及び技術の研鑽並びに救急活動の質の向上を図ることを目的とし、最優秀隊は今年に開催される大阪府下救命技術研修会への出場の切符を手にすることが出来ます。

今回のELSTECは、令和6年7月3日（水）、4日（木）の2日間、高度専門教育訓練センターで行いました。

今回の訓練は、50代男性が仕事中に心臓停止（C P A ）になったという想定のもと、年々活動件数が増加している「救命連携活動」として、消防隊と救急隊が協力して救命活動を行いました。

最優秀隊は旭消防署で、医師からも指導救命士からも高い評価を受けました。
大阪府下救命技術研修会では、さらにパワーアップして素晴らしい活動をされることを祈念しております！

最優秀隊 旭消防署		優秀隊 西成消防署	
救急隊	隊長 胡澤宏	救急隊	隊長 柏井謙次郎
消防隊	副隊長 小澤宏美	消防隊	副隊長 伏見奈々
	隊員 山本龍一		隊員 野見奈々
	隊員 三崎宏		隊員 米倉克
	隊員 尾崎龍一		隊員 稲井亮
	隊員 寺崎龍一		隊員 雄亮
	隊員 静晴		隊員 翔吉



最優秀・優秀隊を代表して、それぞれの隊の女性隊員に質問しました。

最優秀隊
旭消防署（本署勤務）
消防隊 消防士 鈴木 静乃



- ① 救急隊が勤務のため、少しでも消防隊だけでも訓練を行いました。他の隊に見ていただき、「傷病者がいつでも活動しやすい位置に居るとは限らない」とアドバイス頂き、色んな角度、体位で訓練したおかげで、今回の想定でもスムーズに対応できたと思っています。
- ② 救急隊で活動していた際、妊婦さんの交通事故に行きました。その際女性がいてくれて安心してと言ってくださり、凄く嬉しかったです。心に残っています。
- ③ やはり体力や筋力は男性に敵いませんが、それでもやらないといけない、重たくても駆け上がらなければならない場面は多いです。周りに迷惑をかけることも多いですが、出来ることは率先してする、無駄な動きはしない、買い物、車の運転。
- ④ 救急隊で活動し、救命士の取得を目指したいです。
- ⑤

- Q ① 今回の救急救命技術研修会で頑張ったことや印象に残ったことを教えてください。
- Q ② 仕事をすることで、女性で良かったと感じた体験はありますか？
- Q ③ 逆に、苦労したことや頑張っていることを改善策や取組を添えて教えてください。
- Q ④ 休日の過ごし方やストレス発散方法がありますか？
- Q ⑤ 今後の目標や理想像を教えてください。

- ① 救命士の資格を取得してから初めての救命技術研修会だったので、特定行為の手法は何度も何度も訓練を重ねました。本番では消防隊と救急隊が上手く連携を取りながらスムーズに活動することができたと思います。
- ② 現場活動中、女性の傷病者から「女性の隊員さんがいてくれて安心しました」と感謝の言葉を頂いたことは凄く嬉しかったです。今でもその時のことは覚えています。
- ③ 体格の大きい傷病者を搬出する際は、自分の力不足を実感すると同時に、一緒に活動する隊員への負担が大きくなって足を引っ張っているなど感じる時があります。
- ④ 現場で活動する以上、もっと苦手なトレーニングにも取り組んでいかなければと思っています。
- ⑤ 友達と出かけたり、のんびり過ごすことが一番のリフレッシュになっています。



優秀隊
西成消防署（津守出張所勤務）
救急隊 消防士長 伏見 奈々美

おわりに
出場された皆さん、現場や業務で忙しい中、大変お疲れさまでした！
今回のELSTECに向けた更なる技術向上に取り組んでいただきたいと思います。



槍ヶ岳に登頂
しました！



日本消防検定協会
井伊 翔大



私の派遣先である日本消防検定協会は、消火器などの消防用機械器具等の品質・性能を保証するため、検定や受託評価を行っており、私が所属する企画研究部企画研究課では、今年度は経年使用した消防用機械器具等の調査分析を行っています。また、スプリンクラー設備や泡消火薬剤などの消火試験を見学する機会も多く、消防用機械器具等の有効性や不良品の流通を未然に防ぐための検定制度の重要性を再認識するなど、日々貴重な経験をさせていただいております。休日はこちらでの生活を機に始めた山登りを楽しんでいます。山々の壮大な景色に圧倒されるばかりです。

10月より、東京都港区虎ノ門に新築された日本消防会館12階に事務所が移転となりました。虎ノ門ヒルズ隣の事務所の窓からは東京タワーが一望できます。同僚と都市風景を眺めながら働き、昼食はヒルズ族の一員として、虎ノ門ヒルズ内のオープンカフェでランチ、夜はお洒落なバーでカクテルを飲みながら、全国の消防のエキスパートたちと消防行政の今後について語り合っています。全国消防長会での私の主な業務は、「警防・救助に関する事項全般」と範囲が広く、全国の消防本部から寄せられる情勢に応じた課題や取組に対して議論を重ねています。特に今年度は、全国消防救助大会の今後の方向性についての検討や、令和6年能登半島地震において活動した全消防本部からの検討課題を取りまとめた国に対する要望書を作成するなど、日々奮闘しています。

なにわのヒルズ族、
奮闘中!!



全国消防長会
石川 哲平

脳内沸騰!!
毎日充実!!



総務省消防庁
岡留 岳矢



消防・救急課の財政係として勤務しています。主な業務内容は、消防庁所管の「消防防災施設整備費補助金」、「緊急消防援助隊設備整備費補助金」等にかかる事務です。業務については、難しいことが多く、脳内が沸騰し続けている毎日です。しかし、東京には、その沸騰した脳内をやさしく癒して(冷やして)くれる素敵な場所(冷えたアルコール飲料が提供される街)が数多くあり、仕事終わりの一杯が至福の時間になっています。今しか出来ない仕事、人との関わり、場所(飲み屋街)との出会い、すべてが充実した毎日です！

総務課の企画係として勤務しています。主な業務は他省庁からの法令協議や照会回答の窓口、消防白書や消防審議会等を担当しています。他省庁とはもちろん、消防庁内でも業務が円滑に回るためのいわゆる「調整役」を担っています。膨大な仕事量とそれを捌ききる国の人間、全国の消防本部から派遣されているエース級の人間たちはまるでバケモンです。そんなバケモン達と日々切磋琢磨しながら過ごす日々は公私ともに刺激のある充実したものとなっています。時折、標準語がうつってしまいそうになりますが、大阪弁だけは死守しています。



いつも岡留さんと
一緒。
大阪弁死守!!



総務省消防庁
大熊 拓希

どんな時も
現場と被災者
ファーストで!!



総務省消防庁
伊藤 学



私が勤務する消防大学校は、全国の消防関係者に対し、幹部としての高度な教育訓練を行う国の機関です。教官は、全国の消防本部から2年の任期で派遣されており、私は予防関係に加えて救急や女性活躍の学科やコースの担当教官として、カリキュラムの企画立案や外部講師等との調整をしています。また、技術援助として、全国の消防学校へ派遣され講義を行っています。ここでは、教官仲間と全国のご当地グルメに舌鼓を打ちながら、学生第一の教育について昼夜問わず語り合い、また、全国から集まった学生との刺激ある毎日を過ごしています。

派遣期間ラスト
スパート。最後
まで全力で!!



救急振興財団
西岡 誠



私の一番大きな仕事は、災害時における緊急消防援助隊のオペレーションです。警察庁や防衛省などと連携すること多いため、官邸との駆け引きに巻き込まれ大火傷することもあります。全国の消防吏員の代表として、現場と被災者ファーストというスタンスはぶれさせずに戦っています。月の殆どは、災害対応のため霞ヶ関から30分以内の場所に軟禁されており、職場と近くのジムを往復する毎日ですが、訓練や講演などで地方に行き、全国の消防吏員と交流する機会を楽しみにしています。業務に疲れたときは、同じく瀕死状態になっている派遣中の後輩たち(岡留・大熊)をパトロールして息抜きしています(笑)。

全国の教官仲間
と教育談義。
刺激いっぱい!!



消防大学校
松浦 貴子

東京都八王子市にある救急救命東京研修所で、北は北海道、南は鹿児島と全国から集まった救急救命士養成課程研修生の育成を担当しています。派遣期間の2年間で約1200名の研修生に携わっており日々嵐のように過っています。休日は、東京という魅力的な場所ということと今しかできないという2つの理由を自分に言い聞かせ、重い腰を上げて観光に精を出しています。1年目は東京観光スポット30選を制覇し、2年目は関東全域にも足を延ばしつつ、東京近郊では中目黒桜まつり、東京大学の文化祭、隅田川花火大会などの人混みイベントに突撃し、最後まで楽しむことを忘れず全力で派遣ラストスパートをかけています。

「調べて、広めて、市民を守る。」



今回は非常に珍しい火災事例について紹介するよ。あまり聞いたことがない「迷走電流」が原因と思われる火災が発生したので今後の参考にしな。

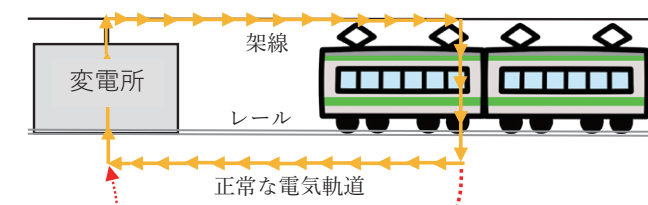
迷走電流…？初めて聞きました…。迷走電流って、何なんですか？



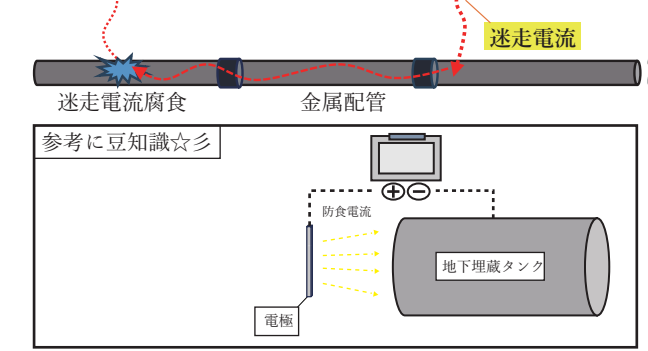
確かにあまり聞かないよね。「迷走電流」とは、簡単にいうと何らかの原因で予期しない回路に電流が流れてしまう現象をいうよ。一般的なものとしては、**落雷**によるものがあるけど、その他にもイメージしやすいようにイラストで事例を紹介するね。



落雷も一般的だけど、**電車軌道**からの迷走電流が起因する事例もあるんだ。電気鉄道など直流電源を使用している場合、レールなどから漏れた電流が土壤中に流出し、その一部が近隣の埋設金属配管やタンクなどの施設に流入することがあって、その電流によりダメージを受けた箇所を迷走電流腐食や電蝕(でんしょく)というよ。



なるほど、本来「変電所」→「架線」→「電車」→「レール」そして、「変電所」に戻るのが基本なのに、図のように土壤中にある金属配管等に流入してしまうことがあるんですね。



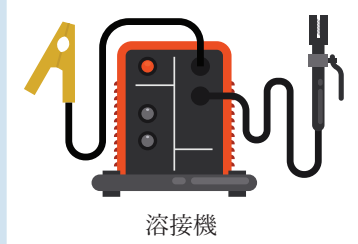
ちなみに、市内を走る電車付近の地下埋蔵タンクや地下埋設配管等には、電極を埋め込み、人為的に継続して微弱の直流電流(防食電流)を流すことで、迷走電流による地下タンク等への腐食を防止しているそうだよ。今回は簡単に紹介程度で…

なるほど、微弱電流を流すことで、腐食を防止しているんだね。

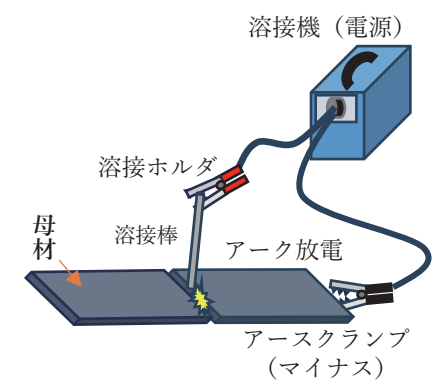
『迷走電流』がイメージできました。少し調べてみると、**アーク溶接機**使用時にも**注意**が必要と出てきたのですが、電流を利用して溶接する**アーク溶接機**使用時にも迷走電流は起こりうるのでしょうか？



いい質問だね。そう、溶接機は**ガス溶接機**と電流を利用する**アーク溶接機**があるけど、この**アーク溶接機**使用時に、正しい使い方をしないと、『**迷走電流**』は起こりうるんだ。溶接機といえば、工事中の建物内において、**溶接火花**の発生により付近の可燃物に着火する事例だと思うけど、溶接作業中に発生する電流を安全に流す回路を確保しなかった場合、予期しない回路へ電流が流れてしまうことがあるんだ。次のページでは、この溶接機について詳しく解説し、迷走電流が起因する事例についてイラストで説明するね。



アーク溶接は、放電による超高温を利用して金属同士をつなぎ合わせる溶接方法で、溶接棒が**プラス**、アースクランプが**マイナス**になるんだ。この溶接機で大事なのは、しっかり**アース**をとることなんだ。注意点について詳しく説明するね。



溶接機のアースの取り方、注意点について

- 溶接機本体のアース端子から、適切な電気回路の確保及び感電防止のために**必ず**アースをとること。
- アースクランプは、**溶接母材**に必ずとること。
- 母材表面の汚れや、塗装がある場合は、汚れなどを落として確実に取り付けること。
- ※母材とは、溶接対象そのもののこと。

Point!

溶接機のアースは、洗濯機や電子レンジのような漏電保護ではなく、**通電のためのもの**なんだ！



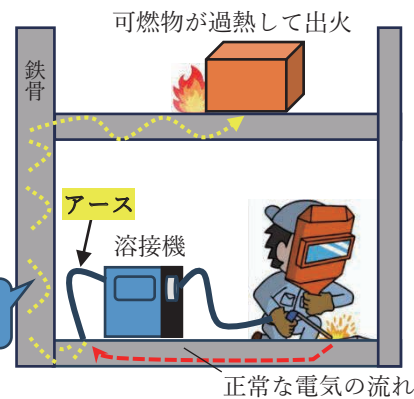
事例 1

作業員が溶接作業中に、本来しっかりと母材にアースをとり回路を作る必要があったが、アースを設置し忘れた為に、適切な電気回路が確保されず、電流が予期しない経路に流れてしまった事例。この事案では、溶接場所から約20mも離れた上階の可燃物から出火した。他にも、上階の壁面内の建材が燃えたり、配線のチューブが焼けた事例も発生している。

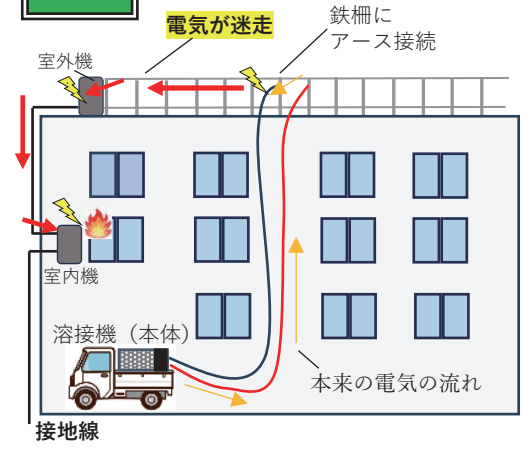


どうやら、場所を変えたり、移動しながらの作業になる工事現場では、アースの取付けが難しい場合もあるようですね～

不適切なアース配線で**電気が迷走**



事例 2



鉄筋コンクリート造4階建共同住宅の3階においてエアコン室内機1基及び室内の天井が焼損した火災。調査の結果、エアコンの基盤や接続部に異常はなく、エアコン本体からの出火ではないとの見解で、再度調査したところ、火災当日に、屋上の手すり部分で『**アーク溶接**』作業をしていたことが分かった。本来、屋上で作業中の溶接棒から放電された電流は、鉄柵に取り付けられたアースクランプを伝って地上のトラックへ戻るはずが、**アースクランプの取付けが悪かった為、鉄柵から屋上の室外機へ、冷媒配管を通して室内機へ、そして室内機のアース線から建物の鉄骨等へ伝わった為**に最も細いアース線が発熱し出火した事例であった。



迷走電流に続き、次号は漏電火災について紹介するよ！

最優秀小隊 第4小隊



優秀班 第27班



消防活動に必要な体力、判断力、注意力、そしてチームワークを養う。



25日には名物行事の一つでもある山岳徒歩訓練が行われた。最優秀小隊に輝いたのは第4小隊であった。また、全28班のうちトップ成績を収めたのは第4小隊の第27班であった。つまり、第27班の6名は見事にW受賞を達成したのだ!

仲間と一緒にゴール!



25日 山岳徒歩訓練

山岳徒歩訓練は、班ごとに目的地を目指しながら地域の清掃活動を行うもので、ゴールまでの所要時間を競う。到着後は施設の清掃活動や奉仕活動を行い、地域に貢献することも目的に実施されている。



ウィアー ルーキーズ! 大阪府立消防学校 初任教育生 月間報告

10月

We are Rookies!

4日 入校式



辞令を受ける多田学生



17日 任命式

今期の総代は、枚方寝屋川消防組合消防本部の多田学生が務める。(上)
また、第1小隊長も同組合の土田学生、第2小隊長は堺市消防局の濱田学生、第3小隊長は大阪市消防局の平野学生、第4小隊長は大阪南消防局の石橋学生、女子学生代表は大阪市消防局の吉村学生が務める。(左から)



まだ夏の日差しも残る10月3日、消防学校は第17期初任教育生の入寮日を迎えた。今期は11消防本部から総員172名が名を連ねる。
翌4日には入校式が、17日には任命式が執り行われた。
任命式では、総代、小隊長、班長、女子学生代表に谷下学校長から辞令が交付された。



大東四條畷消防本部

組合設立10周年記念 「消防・防災フェア」を開催

令和6年9月14日深北緑地球技広場で、ふかきたフェスティバル2024第1部として、大東四條畷消防組合設立10周年記念「消防・防災フェア」を開催し、約3000人のご来場をいただきました。

このイベントは、当消防組合の設立10周年を記念して、市民の皆様には消防をより身近に感じていただくことを目的に、特設ステージでは、大東市民音楽隊による演奏をはじめ、大声コンテストや消防クイズなどを、体験ブースでは、はしご車搭乗やロープ渡過体験のほか、廃棄ホースを再利用した財布作りなどを行いました。

さらに、医師会協賛の「救急フェア」同時開催や市危機管理部局による非常食の配布、警察、自衛隊による車両展示などのご協力もいただき、各ブースとも順番待ちができるほど盛況で、猛暑の中でしたが、子どもたちの笑顔があふれていました。

今後も、市民の安心・安全を確保するため、職員一丸となり業務に精励してまいります。



大阪南消防局

土砂埋没者検索救出救助訓練を実施

令和6年9月16日、柏原市の一般廃棄物最終処分場をお借りし、関係機関との連携強化と土砂埋没者の検索救助を主眼とした訓練を実施しました。

広域化時に創設された風水害対応高度救助機動部隊の指揮のもと、日本レスキュー協会の災害救助犬の人命検索を皮切りに、特別救助隊は地中音響探知機を用いて要救助者の検索を行い、班分けされた地元消防団と協力し、土砂の除去、搬出、救出救助活動を行いました。

救助された傷病者は、救急隊がトリアージと応急処置を行い、大阪市消防局航空隊と指揮隊による無線交信、ヘリテレも活用し、消防ヘリによる傷病者搬送を実施しました。

今回の訓練を通し、埋没者検索の難しさ、人手だけによる土砂除去の大変さを体験するとともに、知識及び技術の向上を図り、発災時、迅速かつ的確な活動が行えるよう、訓練や検証を重ね、さらなる救助技術の高度化と関係機関との連携強化を目指します。



忠岡町消防本部

勉強会で職員のスキルアップ!

忠岡町消防本部では、若手職員を中心とした消防資器材の取扱い説明や予防業務に関する勉強会を職員間で実施しています。

自らが調べ発表することで、プレゼン能力の向上や幅広い知識を得ることができ、発表を聞く側としても再認識することや、新たな知識も増えることで、大変有意義な時間となっています。

予防業務に関する勉強会では人事異動により、予防経験がない職員に対しても消防用設備や危険物等の基本的な知識の向上を図るとともに、発表する側もどう説明し、指導すれば良いかを学び、日々励んでいます。

忠岡町消防本部は職員数が少ないため大半が兼任業務を担っており、幅広い高度な知識が求められます。

一人一人が責任を持ち、職員間の勉強会で情報共有を大切にすることで、職員のスキルアップを図り、多種多様な災害等に対応すべく個々の人材育成の強化にも取り組んでいきたいと考えています。



茨木市消防本部

安威川ダム事案対応訓練を実施

茨木市消防本部では、安威川ダムにおける水難救助事案に対して迅速かつ適切に対処するため、令和6年6月にダム湖での救命ボート操縦訓練を、8月にダム左岸においてツーリング中であつたバイクの運転者が崖下に転落したという想定のもと、救助隊・警防隊・救急隊合同で救命ボートを使用し、ダム左岸から右岸への救出活動を実施しました。

訓練では、2級小型船舶操縦士免許を取得している隊員が操縦訓練や要救助者救出訓練を行うことで、操船技術の向上に加え、ダム湖における救命ボートの入水場所の再確認や地形把握など、今後の現場活動に活かすための貴重な経験が得られました。

今後も、水難救助体制の充実化を図るとともに、複雑・多様化する災害に迅速的確に対応するため、実践的な訓練や教養等を積極的に実施し現場活動能力の向上に努めてまいります。

日本最長の歩行者専用吊り橋が「ダムパークいばきた」に今春開業予定▶▶▶

